

## インターバンクの声（2014年7月10日）

資産購入終了後の利上げ時期について、少し早目の時期になるとの見方を示すメンバーが増えているのではとの予想のもと、若干ドルを買い進めながら連邦公開市場委員会の議事要旨発表を待ったが、結果的に緩和的な政策が当面続くことが確認されたただけだった。このため当然ながらドルは多くの主要通貨に対して売り調整を迫られ、ドル円は101円台半ば、ユーロは1.36ドル台半ばに揺り戻された。雇用統計ほどの強い期待感はなかったが、議事要旨発表も低ボラティリティーから脱却するきっかけとはならず、次のチャンスは一ヶ月半ほどの夏休みに入る直前の今月下旬のFOMCということになりそうだ。雇用統計発表直後のドル上昇は限定的だったが、FOMCメンバーが雇用環境の改善度合いを大きく評価していれば今月末のFOMC後の相場展開は雇用統計の日とは違ったものになる可能性もあるだろう。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。